

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600543		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホームかもがわ		
所在地	静岡県三島市加茂川町3-32		
自己評価作成日	令和 5年 11月 16日	評価結果市町村受理日	令和6年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2270600543-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5年 12月 12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

企業信条『その人そのために』を念頭に置き、入居者の自立を尊重し一人ひとりに向き合った個別ケアに努めています。コロナ禍に活動減となってしまった外出や地域交流を取り戻し、日々の散歩や行事などで地域との関りや交流の場を設けるよう力を入れています。入居者の馴染み深い場所への外出や裏庭での家庭菜園などを行い入居者様が楽しみを持ち穏やかな日々が送れるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街にある事業所で、利用者は畑で夏野菜を作ったり、制作物を職員と作ったり活気がある。職員も人数が確保でき、外国人研修生もいて、利用者はゆったりとその人らしく過ごされている。コロナ禍で制限されていた外出支援が緩和され、利用者の意見を聞いて今年は「楽寿園の菊祭り」に出かけ、利用者は回想ができ、気分転換も図る事が出来た。夏には事業所で小規模の夏祭りを行い、近所の方に声をかけ参加してもらえ、以前の活気を取り戻し、事業所への理解を深めてもらえる機会になった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロア入口に事業所理念を掲示日々意識して実践に心がけています。	理念はユニットの入口に貼りだされ、職員は入退室の際に目にして、常に意識付けできるようにしている。人事評価の際に確認のテストを行い、理念に基づいた個人目標を設定し、1年で振り返って評価し、再度目標を設定する仕組みが作られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や外出時には積極的な挨拶を行い、地域の方との交流に努めています。施設行事時にはお誘いの声かけを行い遊びに来ていただいたり、ご近所より野菜をいただいたりと交流。	自治会に加入し、以前は地域清掃やお祭り、防災訓練等に参加していたので、今後も参加を予定している。隣家の方から野菜の差し入れや近隣の方からサツマイモをもらうなどの交流を続け、今年から小規模の夏祭りを行い近所の家族の参加もあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の施設行事参加にて、実際に認知症の方の様子や支援する様子を見ることで、理解と質問をしてくださる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍には書面にて、コロナ第五類への移行後は会議の場にて運営状況を報告。ご意見アドバイスをサービス向上に活かすよう努めています。	運営推進会議の案内を送り、コロナ5類移行対面で、施設の様子を見てもらえるようにリビングで開催している。家族には順番に声をかけ参加を促し、自治会長と民生員は常時参加している。議事録は職員も閲覧し周知している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム連絡協議会や、介護の日、アルツハイマーデーの展示に参加し実情や取り組みの報告を行うとともに協力関係を築くよう努めています。	市役所担当者へ直接、相談できる関係性があり、グループホーム連絡協議会にはホーム長が参加しテーマを決めて研修を行っている。行政の展示には模造紙に施設や行事の様子を利用者とともに作成し展示した。地域包括支援センターからは入居者の紹介がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を実施し、拘束への理解の場を設けている。研修だけでなくユニット会議、日頃の申し送り等にて職員間で意見を出し合い不適なケアに繋がらぬよう取り組んでいます。	指針、マニュアルは整備され職員はいつでも閲覧できるようになっている。委員会は9人で構成され、3か月に1度開かれている。研修は年に2回行われ、今年度は「スピーチロック」と「事例検討」について学びを深めている。	

静岡県(グループホームかもがわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待・スピーチロックの研修、虐待の芽チェックリストを実施。意見交換することにより虐待への再認識と意識付けを行い、見逃ごされることがないように防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度について学ぶ機会は少なく活用できるよう学ぶことが必要		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明時に不安や疑問点を尋ね、追加説明を行い理解・納得していただけたことを確認してから同意書をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での意見要望の機会の場と、面会時の対面や電話、対話時に気軽に要望を表してくださり運営に反映。	コロナウイルスが5類に移行後、家族の面会は予約、制限なしで行われ、写真や担当者のコメント付きのお便りは毎月送付している。運営推進会議に出席した家族から会議に出てよかったと言われ、質問も頂けた。手紙を書く支援を継続して行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談での聞き取りのほか、日頃より意見を話しやすい環境作りをし、あがってきた意見提案を反映している。	個別面談は半年に1回行われ、ホーム長は出勤時に積極的に利用者や職員に声かけをしている。また、ホーム長の意向で職員が運営に関わってもらえるよう話しやすい環境を作り、職員からの意見や提案にはまず取り組み、足りない場合は再度検討し反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価・個別面談より把握。 新たな提案があれば取り組み、向上心へ繋がる環境である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外研修を実施。他必要職員への外部研修への参加機会の確保、資格取得研修へのサポートを実施。		

静岡県(グループホームかもがわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会議・ミーティング・研修を行い、交流、意見交換ができる機会とネットワークができており、質の向上への取り組みに努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人への傾聴を多く行い、その人を知ることが必要としているケアをカンファレンス。その人らしく過ごし安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族への傾聴にて、ご家族が望むことを確認させていただいている。またケアのために一つでも多くの情報の聞き取りにご協力いただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされているケアをアセスメントにて見極め必要時には他サービスの情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常暮らしの中にある、掃除や食事、食器の片づけや洗濯物等、本人ができることをご自身で行っていただき、時に職員と一緒にいき共に日々を過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られないご家族へは、お便りや写真、電話にて状況が共有できるよう努め、足を運べるご家族には買い物や病院受診への同行、衣替えのタンス整理等できることはお願いし共に支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の面会規制の解除以降は、ご近所の方やご友人、お付き合いの長いご住職の面会などがあり、その後も継続して来訪。馴染みの場所への外出も行っている。	面会には家族の他に近所の茶飲み友達が2人で来てくれたり、お寺の住職が1日と15日に来てくれる。お気に入りの理容院に通われている利用者もいる。今年度は楽寿園の「菊祭り」にでかけ懐かしんでもらえたり、温水地や初詣にも出かける予定でいる。	

静岡県(グループホームかもがわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースでの席はコミュニケーションに配慮。家事を一緒に携わっていただき関わり合えるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取り退居後の繋がりはなく、入院退居者においては電話にてご様子を伺いご家族の思いに傾聴することがありました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話から聞き取り把握に努めている。 困難な方へは表情や様子を観察しくみ取れるようにしている。	職員は利用者の話を注意深く聞き、得た情報は申し送りノートや日報の特記事項に記入して、職員全員で情報を共有している。困難な利用者には声かけ後の反応を見たり、様子を観察して対応している。	家族アンケートに職員による対応の違いについて指摘があり、全職員が同じような支援ができるような介護スキルのアップや工夫を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や入居前のケアマネージャーからの聞き取りと、ご本人の会話の中からの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様子観察、ケア記録、職員間の申し送りにて情報を共有し現状を把握。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の望む暮らしに軸を置き、現状をモニタリング。カンファレンスにて必要とする課題について皆で意見交換し計画作成。	モニタリングは更新時に計画作成者が全職員に用紙を配布して意見を聞き、介護記録で確認して行っている。カンファレンスはミーティング時に2か月で全員分を行っている。医師や訪問看護師、薬剤師等の意見を聞いて家族に意見を求め、計画を作成している。職員はユニットの利用者の内容を把握している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	皆に伝わるよう、ご本人の様子と実践の記録を行い申し送りにて職員間で情報を共有。必要時には個別にカンファレンスを行い見直しをしている。		

静岡県(グループホームかもがわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員皆で意見を出し合うことで様々な考え方や着眼点の違いがあり、型に捉われない柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	古くからある地域の大きな神社から聞こえてくる砂切りの練習の音やリズムに多くの入居者が楽しみ活気となる。祭事だけでなく日頃より散歩に訪れる支援を行う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通いなれたかかりつけ医での受診継続を尊重。 必要であれば往診依頼し安心して適切な医療が受けられるよう支援。	入居前からのかかりつけ医の受診者は1名が家族対応、2名が近くの内科から月に1回往診があり、他は協力医の全体1回個別1回の訪問診療で対応している。協力医はほぼ毎日来所し、相談にのってもらえ他科の初期対応もしてもらえ、協力医の看護師も週に1回健康チェックに来所している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医療機関より訪問看護が毎週健康管理に来所。一週間の様子を報告、変化時には随時報告や相談を行い指示アドバイスをしてくれる。介護士より受けた報告は主治医へ報告してくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院となった際には早急に介護サマリーを作成し医療機関へ情報提供。ご家族と連絡を密にとり経過を把握。ご家族対応ではない方は医療機関へ赴きソーシャルワーカーとの情報交換や相談を行い、どちらも主治医へ経過を報告し対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化終末期には、ご本人ご家族の意向を再度確認するとともに、早急に医師看護師、ご家族とのムンテラを行う。看取りを望まれたら事業所でできる対応を説明し、ご家族の意向等を職員へ情報共有し対応している。	入居時に重度化や終末期の説明を行い、本人家族から同意書を得ている。状況に変化があると医師が管理者の同席のもと家族に状態の説明をし、家族の意向を再確認して対応と支援を話し合っている。看取りは職員のほとんどが経験しており、研修も年間計画の中に組み込まれている。今年度は、協力医が「救急時の対応について」研修を行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応・急変時の初期対応の研修を実施。 また緊急時の応援のために、職員緊急連絡訓練を行い対応できるようにしている。		

静岡県(グループホームかもがわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練、年1回市内で行われる水防訓練日に訓練を実施。水害危険時に対応できるよう避難レベル水位の確認等の研修を行い職員へ周知。BCPを作成し法人内系列ホームとの協力体制を築いている。	年に2回委員会が計画し地震から火災の訓練を行い、水害危険地域のため、水防訓練を年に1回行っている。実際に6月の台風時に川の水位が上がり、垂直避難を行った。連絡網訓練も行われ、備蓄リストも整備され定期的にチェックしている。	夜間想定訓練は全職員が体験できるように準備し、長期停電の備えを法人と話し合って進められるよう期待します。地域との良い関係が築けているので、災害時に協力してもらえるような体制づくりを希望します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊厳・プライバシー保護の研修を実施。 一人ひとりに合った言葉かけを行い、聞き取れないからと大きな声で伝えず場合によってはプライバシーを損ねぬよう筆談にて伝える。個人を特定できぬよう申し送りは部屋番号にて行っている。	年に1回、人格の尊厳、プライバシー保護の研修を行っている。日頃から一人一人にあった言葉かけを注意して行い、課題がある時には職員同士、注意しあう関係ができています。解決できない場合は、ミーティングで話し合うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択の場ではご自身で決めていただき、日頃より本人への意向確認を行って、本人の希望を表せるようにしている。認知症状に日差あり希望を表わせられない時は混乱しないよう配慮。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者に軸を合わせ、一人ひとりに合ったペースで過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	体温調整に問題がなく、季節にあった衣類であればご自身の望むスタイルを尊重しその人らしさを支援。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえ、盛り付けの手伝いをしていただいたり、下膳や食器の片付けをしている。好みを伺い献立に取り入れている。	利用者に食べたい物を聞き、食材は生活協同組合の配達や近くのスーパーマーケットで購入している。野菜は近くの八百屋に配達してもらい、夏には施設内の畑で取れた野菜や、近所からのおすそ分け等を利用して、職員が献立を考え調理している。食レクではおやつやお稲荷さんを作ったり、誕生日には外出してラーメンを食べたりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の確認と記録、体重や健康状態に応じ飲料を変更したり水分強化や食事量の見直しなどの対応をしている。		

静岡県(グループホームかもがわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア時の様子を見守り、声かけや必要に応じてサポートを行う。マウスウォッシュの使用やうがいのできない方へは口腔内を拭えるようスポンジブラシや不織布を使用。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の様子観察や排泄記録より個々のパターンを把握し、訴えのない時は適切な時間での声かけや誘導を行いトイレでの排泄ができるよう支援。	排泄パターンを把握して、時間や利用者の表情や様子を見て声かけし、トイレへ誘導している。男子用の便器も使用している。自立の方は見守り、布パンツの方も6人いる。夜間はポータブルトイレの方、オムツ、布パンツにパッド等個々に合わせて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を取り入れたバランスの良い食事、毎朝のヨーグルトと牛乳を提供。散歩や適度な運動のケアと水分摂取量の管理にて対応。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全介助、2人介助にて入浴するかたは、ある程度予定をたてさせていただいているが、他の方は個々の希望に配慮し対応。また入浴剤を使用したりと気分転換していただいています。	週に2~3回、主に午前に入浴している。強い拒否者はいないが体調や気分で入浴を嫌がる方には無理強いをせず、時間や日にちを変えている。2人介助で対応している利用者もいる。入浴剤は3種類用意し、気分を変えて入浴を楽しめるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の習慣のある方には休んでいただき、他の方は様子を見守り必要であれば休息を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報のファイルをいつでも確認できるところに保管。服薬変更時には申し送り、訂正追加などを管理し情報共有。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人が得意とすることを手伝っていただき、自身の役割を感じることで日々に張り合いを持っていただく。皆で苗を植え野菜を育て、収穫、消費、と長く楽しめるよう工夫している。		

静岡県(グループホームかもがわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	思いに傾聴し、可能な限り希望へ対応できるように散歩だけではない外出の機会を設けている。	天気の良い日には施設近くの川や幼稚園を通るコースの散歩をしている。今年度は楽寿園の菊祭りの見学や温水池にもドライブに出かけ、可能な限り家族との外出外食の支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分のお金を持つことで安心されることを理解している。外出先で買い物を買われた時は、ご自身で購入する行為を見守っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持し自ら連絡を取る方や、電話のない方の要望にはご家族との電話を取り次いでいる。毎月手紙を預かりポスト投函を頼まれています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用エリアには一緒に準備や作成した季節を感じるものを掲示。穏やかに過ごしていただけよう整理整頓に心がけ、空調に配慮しカーテンなどで光の調節を行っています。	壁には職員と利用者が作った大きなクリスマスリースが飾られ、鶴の折り紙も沢山飾られていた。台所から死角になる場所には、鏡を利用して常に利用者が見えるように工夫している。清掃は主に職員が行い、利用者もモップ掛けを手伝ってくれる。手すりの消毒は朝と夜、日中は風が通るよう窓を開け換気している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う者同士で過ごす場所はあるも共用空間に独りになれる場所はない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人ご家族と相談し、できるだけ使い慣れた家具や寝具の持ち込みと、今まで過ごしていた環境と同じような家具の配置になるようにしている。	洗面台クローゼットが備え付けられ、入居時にベッドの配置を自宅と同じようにして馴染みやすいように工夫している。花柄が好きな利用者はカーテン、布団カバー、枕カバーに取り入れたり、自宅からタンスを持参する方など居心地の良い居室づくりを心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所がわからなくなってしまう方へ、名前を貼ったりトイレお風呂場など、わかりやすいように表示することで自立を保つ工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600543		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホームかもがわ		
所在地	静岡県三島市加茂川町3-32		
自己評価作成日	令和 5年 11月 16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2270600543-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5年 12月 12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

企業信条『その人そのために』を念頭に置き、入居者の自立を尊重し一人ひとりに向き合った個別ケアに努めています。コロナ禍に活動減となってしまった外出や地域交流を取り戻したく、日々の散歩や行事などで地域との関りや交流の場を設けるよう力を入れています。入居者の馴染み深い場所への外出や裏庭での家庭菜園などを行い入居者様が楽しみを持ち穏やかな日々が送れるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロア入口に事業所理念を掲示 日々意識して実践に心がけています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や外出時には積極的な挨拶を行い、地域の方との交流に努めています。施設行事時にはお誘いの声かけを行い遊びに来ていただいたり、ご近所より野菜をいただいたりと交流。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の施設行事参加にて、実際に認知症の方の様子や支援する様子を見ることで、理解と質問をしてくださる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍には書面にて、コロナ第五類への移行後は会議の場にて運営状況を報告。ご意見アドバイスをサービス向上に活かすよう努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム連絡協議会や、介護の日、アルツハイマーデーの展示に参加し実情や取り組みの報告を行うとともに協力関係を築くよう努めています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を実施し、拘束への理解の場を設けている。研修だけでなくユニット会議、日頃の申し送り等にて職員間で意見を出し合い不適切なケアに繋がらぬよう取り組んでいます。		

静岡県(グループホームかもがわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待・スピーチロックの研修、虐待の芽チェックリストを実施。意見交換することにより虐待への再認識と意識付けを行い、見過ごされることがないように防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度について学ぶ機会は少なく活用できるよう学ぶことが必要		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明時に不安や疑問点を尋ね、追加説明を行い理解・納得していただけたことを確認してから同意書をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での意見要望の機会の場と、面会時の対面や電話、対話時に気軽に要望を表していただき運営に反映。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談での聞き取りのほか、日頃より意見を話しやすい環境作りをし、あがってきた意見提案を反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価・個別面談より把握。 新たな提案があれば取り組み、向上心へ繋がる環境である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外研修を実施。他必要職員への外部研修への参加機会の確保、資格取得研修へのサポートを実施。		

静岡県(グループホームかもがわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会議・ミーティング・研修を行い、交流、意見交換ができる機会とネットワークができており、質の向上への取り組みに努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人への傾聴を多く行い、その人を知ることが必要としているケアをカンファレンス。その人らしく過ごし安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族への傾聴にて、ご家族が望むことを確認させていただいている。またケアのために一つでも多くの情報の聞き取りにご協力いただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされているケアをアセスメントにて見極め 必要時には他サービスの情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中にある、掃除や食事、洗濯物の片づけや洗濯物等、本人ができることをご自身で行っていただき、時に職員と一緒に日々を過ごしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られないご家族へは、お便りや写真、電話にて状況が共有できるよう努め、足を運べるご家族には買い物や病院受診への同行、衣替えのタンス整理等できることはお願いし共に支		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の面会規制の解除以降は、ご近所の方やご友人、お付き合いの長いご住職の面会などがあり、その後も継続して来訪。馴染みの場所への外出も行っている。		

静岡県(グループホームかもがわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースでの席はコミュニケーションに配慮。家事を一緒に携わっていただき関わり合えるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取り退居後の繋がりはなく、入院退居者においては電話にてご様子を伺いご家族の思いに傾聴することがありました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話から聞き取り把握に努めている。困難な方へは表情や様子を観察しくみ取れるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や入居前のケアマネージャーからの聞き取りと、ご本人の会話の中からの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様子観察、ケア記録、職員間の申し送りにて情報を共有し現状を把握。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の望む暮らしに軸を置き、現状をモニタリング。カンファレンスにて必要とする課題について皆で意見交換し計画作成。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	皆に伝わるよう、ご本人の様子と実践の記録を行い申し送りにて職員間で情報を共有。必要時には個別にカンファレンスを行い見直しをしてい		

静岡県(グループホームかもがわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員皆で意見を出し合うことで様々な考え方や着眼点の違いがあり、型に捉われない柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	古くからある地域の大きな神社から聞こえてくる砂切りの練習の音やリズムに多くの入居者が楽しみ活気となる。祭事だけでなく日頃より散歩		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通いなれたかかりつけ医での受診継続を尊重。必要であれば往診依頼し安心して適切な医療が受けられるよう支援。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医療機関より訪問看護が毎週健康管理に 来所。一週間の様子を報告、変化時には随時報告や相談を行い指示アドバイスをしてくれる。介護士より受けた報告は主治医へ報告		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院となった際には早急に介護ワーカーを作成し医療機関へ情報提供。ご家族と連絡を密にとり経過を把握。ご家族対応ではない方は医療機関へ赴きソーシャルワーカーとの情報交換や相談を行い、どちらか主治医へ経過を報告し対応		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化終末期には、ご本人ご家族の意向を再度確認するとともに、早急に医師看護師、ご家族とのムンテラを行う。看取りを望まれたら事業所でできる対応を説明し、ご家族の意向等を職員へ		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応・急変時の初期対応の研修を実施。また緊急時の応援のために、職員緊急連絡訓練を行い対応できるようにしている。		

静岡県(グループホームかもがわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練、年中四市内で行われる水防訓練日に訓練を実施。水害危険時に対応できるよう避難レベル水位の確認等の研修を行い職員へ周知。BCPを作成し法人内系列ホームとの協		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊厳・プライバシー保護の研修を実施。一人ひとりに合った言葉かけを行い、聞き取れないからと大きな声で伝えず場合によってはプライバシーを損ねぬよう筆談にて伝える。個人を特定できぬよう申し送りし部屋番号選択の場ではご自身で決めていただき、日頃より本人への意向確認を行って、本人の希望を表現できるようにしている。認知症症状に日差あり希望		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者に軸を合わせ、一人ひとりに合ったペースで過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	体温調整に問題がなく、季節にあった衣類であればご自身の望むスタイルを尊重しその人らしさを支援。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえ、盛り付けの手伝いをしていただいたり、下膳や食器の片付けをしている。好みを伺い献立に取り入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の確認と記録、体重や健康状態に応じた飲料を変更したり水分強化や食事量の見直しなどの対応をしている。		

静岡県(グループホームかもがわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア時の様子を見守り、声かけや必要に応じてサポートを行う。マウスウォッシュの使用やうがいのできない方へは口腔内を拭えるようスポ		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の様子観察や排泄記録より個々のパターンを把握し、訴えのない時は適切な時間での声かけや誘導を行いトイレでの排泄ができるよう支援。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を取り入れたバランスの良い食事、毎朝のヨーグルトと牛乳を提供。散歩や適度な運動のケアと水分摂取量の管理にて対応。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全介助、2人介助にて入浴するかたは、ある程度予定をたてさせていただいているが、他の方は個々の希望に配慮し対応。また入浴剤を使用したりと気分転換していただいています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の習慣のある方には休んでいただき、他の方は様子を見守り必要であれば休息を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報のファイルをいつでも確認できる場所に保管。服薬変更時には申し送り、訂正追加などを管理し情報共有。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ての力が得意とすることを手伝っていたとき、自身の役割を感じることで日々に張り合いを持っていただく。皆で苗を植え野菜を育て、収穫、消費、と長く楽しめるよう工夫している。		

静岡県(グループホームかもがわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	思いに傾聴し、可能な限り希望へ対応できるよう 散歩だけではなく外出の機会を設けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分のお金を持つことで安心されることを理解している。外出先で買い物を望まれた時は、ご自身で購入する行為を見守っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持し日々連絡を取る方や、電話のない方の要望にはご家族との電話を取り次いでいる。毎月手紙を預かりポスト投函を頼まれています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用エリアには一緒に準備や作成した季節を感じるものを掲示。穏やかに過ごしていただけるよう整理整頓に心がけ、空調に配慮しカーテンなどで光の調節を行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う者同士で過ごす場所はあるも共用空間に独りになれる場所はない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人ご家族と相談し、できるだけ使い慣れた家具や寝具の持ち込みと、今まで過ごしていた環境と同じような家具の配置になるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所がわからなくなってしまう方へ、名前を貼った りトイレお風呂場など、わかりやすいように表示することで自立を保つ工夫をしている。		